

府養研ニュース

平成20年3月4日発行
 大阪府養護教育研究会
 会長 坂ノ上 泰博
 (摂津市立第三中学校)

4月号の発行
 予定日は
 4月 中旬

ホームページもご覧ください。<http://fuyouken.visithp.jp/>

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて件名に「府養研問合せ」など「府養研」を入れてください。

jimukyoku07@fuyouken.visithp.jp

アドレスをテキストで載せるとスパムメールが多数届いてしまうので、画像で張り付けてあります。

お手数ですが、手入力をお願いします。

平成20年度の総会 平成20年 5月15日(木)午後3時～5時 **アウーナ大阪 葛城(東)**

府養研役員総会予定

第1回平成20年 6月12日(木)午後3時～5時 **アウーナ大阪 金剛(東)の間**

第2回平成20年 9月11日(木)午後3時～5時 **アウーナ大阪 信貴の間**

第3回平成21年 1月15日(木)午後3時～5時 **アウーナ大阪 信貴の間**

終了した研修会

LD教育プロジェクト「講演会」報告

2008年1月16日(水) クレオ大阪東
 「通常学級で学ぶ発達障害児への困り感に
 寄り添う支援」
 岡山大学教育学部教授 佐藤 暁先生

府養研冬季教育講演会及びコンサート報告

2008年1月26日(土) たかつガーデン

野尻千穂子さん 「命の花、咲かそ！」

リピート山中さん 「いのちのうた」

上甲 晃さん 「志は愛」

大阪府教育委員会障害教育課、
 大阪府教育センター特別支援教育研究室
 との懇談会の報告 2008年2月4日

自閉症教育プロジェクト・教育講演会終了

平成20年3月1日(土) 大阪府教育会館2階コスモス
 『自閉症の感覚特性の理解と対応』
 花ノ木医療福祉センター・作業療法士 灘裕介先生

以下他団体の案内です。問い合わせは各団体をお願いします。

チャレンジキッズ研究会 2008 の案内

「先生のためのICT・子どものためのICT」

2008年3月22日(土)13:00～17:00

滋賀大学教育学部附属特別支援学校

<http://fyw.sue.shiga-u.ac.jp/>

<第1部> 子どものための ICT

<第2部> 先生のための ICT

第16回 大阪ムーブメント教育 研究会のご案内

平成20年4月12日(土) 14:00～16:00

大阪教育大学 天王寺キャンパス ミレニアムホール
 参加費 :500円

特別支援教室でのムーブメント教育の実践

ママッピー-OSAKA(足立朋子先生・井澤郁子先生・
 梅川佳子先生)

大阪府養護教育研究会LD教育プロジェクト講演会（報告）

平成20年1月16日クリオ大阪東において、大阪府養護教育研究会LD教育プロジェクト主催の講演会が開催されました。

講師として岡山大学の佐藤暁（さとる）先生をお招きして、「通常学級で学ぶ発達障害児への困り感に寄り添う支援」というテーマでお話しいただきました。会場には333名の方が集われ、スタッフも含めると350人を越える盛会となりました。先生には、豊富な事例をもとに、支援のあり方について具体的に説明していただきました。

<内容>

①「子どもの”困り感”に気づく”感性”を持って」

発達障害の子どもの一番の特徴を一言で言うならば、「周りの人が何をやっているか直感できない。」ということである。

例えば、人は頼みごとをするときにはまず内容を考えて、頼んできいてくれそうな人に、きいてくれる余裕がありそうな時間（タイミング）を見計らってお願いをしている。これらは人が他人の振る舞いを見て身につける行動であるが、発達障害の子どもはこれがわからない。そのため、お願いごとをしても自分の要求が通らない場合が多く、彼らは慢性的な欲求不満状態に陥っている。

これを解決するためには「適切な方法で要求すれば、大人は誠実に動いてくれる」

ということを教えることである。そして、そのための頼み方を場面設定してさせてみるのである。

大切なことは子どもにどのように伝えるかではなく、子どもが大人にどう伝えるかを教えることである。そして最終目標はスキルを身につけることではなく、「人を信じる力」をつけさせることにある。



②「授業の改善に力を入れよ」

発達障害の子どもたちにソーシャルスキルをいくら施しても、それを受け入れる集団が崩壊しているようであれば、何の役にも立たない。ということは特別支援教育の目標は発達障害の子どものスキルアップをめざすことだけではなく、すべての子どもたちの学びと育ちを保障することである。

そのためのもっとも効果的な手だては、授業の改善に力を入れることである。

具体的方策としては、

- ・学校全体で授業公開を行う。
- ・”教師がどう教えたか”から”子どもがどう学んだか”という観点で見る。

- ・指導案は略案、あるいはそれ以下で行う。（形式張らないこと）
- ・参加する教師はあらかじめ見る班を分けておく。
- ・協議会を開き、子どもの活動を中心に話し合う。
- ・話の目的を「子どもへの”困り感”に気づく」ことと「子どもの学びと育ちを確認する」ことにする。
- ・公開した教師が「やってよかった」と思える公開授業にする。

発達障害の子どもは配慮されるために学校に来ているのではない。学ぶために来ているのである。全体の学びの質が落ちると、発達障害の子どもが困ることになる。リーダーを育て、班の自治、学級の自治に発展させていく集団作り授業作りを行うことで、発達障害の子どもも救われるのである。

③「子どもを救う答えはすべて現場にある」

特別支援教育を行うには何か特別な知識が必要で、特別なことをするようにとられ、先生方が指導に不安を感じてしまうという構図ができていく。が、実はそうではない。今までの実践からできることがいくつもある。

子どもを救う答えは、子どもについて話し合うことから探し出すことができる。現場で自信を持って取り組んで欲しい。

（文責：北河内 LD 研究会 事務局長
大東市立深野中学校 木原 弘）



＜冬季教育講演会及びコンサートの感想報告＞

去る1月26日(土曜日)、大阪府養護教育研究会主催による「冬季教育講演会及びコンサート」が、たかつガーデンにて開催されました。

◎教育講演会 I 部は、野尻千穂子さんの講演「命の花、咲かそ！」

野尻千穂子さんが車いすで舞台に上られると、不思議な緊張感に包まれました。野尻さんご本人の体験をもとにした話が始まりました。明るく澄み渡る声が会場にひろがると、参加者はその世界に引き込まれるように聴き入りはじめました。「生き様が言霊になって伝わってくる。」そんな迫力を感じたようです。11才の時、突然の歩行障害、手術の下半身麻痺、福祉医療が不十分な時代の治療の日々、トイレトレーニング、出産から子育ての喜びと感謝等々の話に、会場にはハンカチで涙を拭う様子が多く見受けられました。

かけがえのない命の贈り物である娘さんへの想い、周りの中傷に堪えて大きく広い愛情で千穂子さんを支え続け来られたご両親への感謝の言葉にも深く感銘を受けました。

「命のポスト」のボランティア活動も長く続けておられ、与えられた小さな一つ一つの命を守り育てることの大切さを、こころに深く届けていただきました。

◎コンサートは、リピート山中さんのこころの歌メッセージ「いのちのうた」

リピート山中さんのフォークギターの引き語り歌が始まりました。金色の頭髪とふっくらした体格からは、予想を超えた(?)ユーモアと愛情が織り込まれた歌詞とメロディーが会場に響きました。

兄妹、家族のそこはかとなない情愛を描いた「トンカツの歌」、子どものこころ声を聴く「我が家のハルウララ」動物とのこころの支え合いを紡いだ「ワンダフルパートナー」等、リピート山中さんの人柄が滲み出る曲を楽しみました。最後にはギターの弦が切れるハプニングもありましたが、リピート山中さんのアカペラの歌声が会場に響きわたり、参加者の手拍子や歌声も加わって、より親密で和やかにフィナーレを迎えることができました。



◎教育講演会Ⅱ部は、上甲晃さんの講演「志は愛」

元松下政経塾の塾頭として、多くの青年の指導に携わってこられた体験をもとに、日本の将来への思いや志について熱く語っていただきました。松下幸之助氏の後ろ姿に学び、

日本の百年先を創造できる指導者をつくることをめざして、実践を重ねてられています。人を指導して学んだことから、「人を変えることはむずかしい。まず、自分を変えよう。」と、トイレの清掃、履物を揃える等まず自らが率先して実践し、「一歩前」気持ちと行動を一致させることの大切さを力説されました。

松下電器株式会社を依願退職した後、青年塾を立ち上げ、「人のために役立つ志を持とう。」と日本全国で研修、研鑽に励んでおられます。また、日々1300字の記録を書き連ねた「デイリーメッセージ」は、6000日を超えたとのこと、驚嘆するばかりです。

日本人がこころの面で世界に誇れる社会になるために、私たち大人一人ひとりがその責任を自覚し、行動することの教えをいただきました。



参加者のアンケートからは、「命の大切さを再確認した貴重な一日となりました。」「人生のすばらしさに感動、明日からの教育のエネルギーになりました。」「こころに響く歌、もっと聴きたかったです。」「教師1年目ですが、教師として人間としてどうあるべきか、何か見えたような気がしました」「また、来年もこんな企画があれば参加したい。」等々、多くの方々から感動と感謝の言葉をいただきました。

教育講演会及びコンサートの共通のテーマは、「この世に無駄な人は、誰一人いない。」ということだったと感じています。お互いの存在の大切さを確かめ合い、支え合って生きて行くことの大切さを伝えていただく貴重な機会になりました。講演や歌でこころに響くメッセージを届けて下さった3人の方々、そして、参加下さった皆様に深く感謝しています。次の世代の子どもたちのために、それぞれができること積み重ねていきたいです。

記：大島昇（大阪府養護教育研究会書記）

大阪府養護教育研究会懇談会報告

大阪府養護教育研究会と大阪府教育委員会障害教育課、大阪府教育センター特別支援教育研究室との懇談会が、平成20年2月4日(月)さいかくホールにておこなわれました。

府養研では毎年、この懇談会を行っております。研究団体としての立場を大事にしつつ、教育委員会・センターと協力し、それぞれの立場を活かし、互いに特別支援教育を推進することを目的としています。

今回のテーマは「特別支援教育の現状と課題、及び今後のめざすべき方向性について」でした。府養研からは、本部役員、支部長、行事部員が参加しました。府養研の事業報告の後、府教育委員会・センターから、学校等の呼称変更の事情、府の施策、特別支援教育を推進するためのモデル事業や研究指定に関して、特別支援教育の現状と課題について等の報告がありました。その後、各テーマについて意見交換が行われました。内容については、今回府教委・センターより資料を提供いただきましたので、添付書類をご覧ください。

一部をここに紹介しますと、リーディングスタッフのフォローアップや障害教育地域支援整備事業、特別支援教育推進体制事業、発達障害早期総合支援モデル事業、障害のある児童生徒への教育支援事業、養護学級や通級指導教室の増設、小中養護学級指導体制充実事業(週30Hの非常勤講師)、市町村医療的ケア体制整備推進事業、などがあります。管理職や一般教員への研修も今後充実されていきます。二次的障害についても、教育の責任と考えて、取り組まれていきます。個別指導計画は、相談して作成していく過程が大事という意見でした。増えている途中入級の分析により、保護者の思いもより汲み取られていくはずです。

後期中等教育の充実として、知的障害生徒自立支援コース、共生推進教室、たまがわ高等支援学校やだいせん高等聾学校、高等学校における発達障害支援モデル事業の紹介がありました。今後は中学校から高等学校への連携も充実して行くでしょう。

大阪府は「共に学び、共に育つ」教育を大切にし、障害のある子どもたちのみならず、全ての子どもたちにとって、笑顔が持てる教育を保障する「大阪の特色に応じた特別支援教育」を守る必要があります。予算面でまだ厳しい面もありますが、手応えを感じる懇談会でした。



2008年2月15日

特別な教育的ニーズのある子どもの教育に関わる皆様へ

チャレンジキッズ研究会会長 大嶋彰
(滋賀大学教育学部附属特別支援学校長)

チャレンジキッズ研究会 2008 「先生のためのICT・子どものためのICT」

寒冷の候皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、すっかり恒例となりました「チャレンジキッズ研究会」年度末研修会ですが、今年度も下記の日程で実施したいと考えております。

つきましては、多くの皆様のご参加を賜りたく存じます。年度末のお忙しい折ではございますが、よろしく願いいたします。

記

日時：2008年3月22日（土）13:00～17:00（第1部・第2部）

会場：滋賀大学教育学部附属特別支援学校

〒520-0002 滋賀県大津市際川3丁目9-1

<http://fyw.sue.shiga-u.ac.jp/>

プログラム予定:

受付 12:30～

<第1部> 子どものためのICT 13:00～14:50

○日々の授業実践の中から、子どもに役立つアシスティブ・テクノロジー、ICT活用の事例を紹介します。「支援」の観点であれば、デジタル機器の活用はもちろん、アナログなツール・教材の活用事例も歓迎です。

<第2部> 先生のためのICT 15:00～17:00

○特別支援教育の広がりとともに、必要な情報の提供・交換、相談業務の効率化、校内外の支援情報蓄積など、ICTを活用することでより便利に、より有効にセンタ儿的機能を担うことができないか・・・参加する皆さんと考えたいと思います。

<第3部> 大いに語ろう 17:30～

○恒例の夜の部です。食事をともにし、参加者間の密接な情報共有・交流をします。
例年通り宿泊もできます。

参加申し込み、お問い合わせ

電子メール（以下の様式）か、Fax でお願ひします。

電子メール：cha-ken2008@fyfc.sue.shiga-u.ac.jp

Fax：077-526-2279

----- 以下参加申し込み -----

チャレンジキッズ研究会 2008 申し込み

2008年3月22日のチャレンジキッズ研究会に参加を申し込みます。

氏名	
所属	
連絡先	電話
	電子メール
第三部	以下参加を希望します 懇親会／宿泊
備考	

第16回 大阪ムーブメント教育 研究会のご案内

大阪ムーブメント教育研究会（JAMET 大阪支部）
代 表 金川朋子（大阪教育大学附属特別支援学校）

ムーブメント教育は、1977年に横浜国立大学教授・小林芳文博士によって、初めてわが国に紹介されました。『人間尊重』の教育を基本理念として、子どもの自主性・自発性を重視し、究極的には子どもの『健康と幸福感の達成』をめざしています。この素晴らしいムーブメント教育について、ともに勉強し、日々の教育実践に反映させ、楽しいムーブメント教育を広げていきたいと考え、2005年10月から大阪でも研究会をスタートしました。昨年8月には、第2回大阪セミナーが開催され、ムーブメントが大阪を中心として西日本でも大きく広がり仲間が繋がってきています。

ムーブメント教育に興味をもたれている方、もっと勉強してみたいと思われる方、ぜひ参加してください。また、まだムーブメント教育を知らない方々も仲間でおられたらぜひお誘いください。

☆ 日 時 :平成20年 4月 12日(土) 14:00 ~ 16:00

☆ 会 場 :大阪教育大学 天王寺キャンパス ミレニアムホール
(JR 環状線 寺田町駅下車 徒歩5分)

☆ 参加費 :500円 (当日 徴収いたします)



《第14回研究会の様子》

☆ 内 容 : 特別支援教室でのムーブメント教育の実践
マッピーOSAKA(足立朋子先生・井澤郁子先生・梅川佳子先生)

☆ 申し込み先及び方法

:金川朋子 自宅 FAX 072-367-0713

:E-MAIL kogorou123@nifty.com

:下記の申込書にご記入の上FAX、もしくはメールでお申し込みください。

☆大阪ムーブメント教育研究会ホームページ <http://homepage2.nifty.com/osaka-movement/>

☆ その他

・動きやすい服装でご参加ください。

・問い合わせ等

金川朋子(大阪教育大学 附属特別支援学校)

学校TEL 06-6708-2580 学校 FAX 06-6708-2380

携帯 090-9984-1183 自宅 FAX 072-367-0713

☆ ムーブメント教育 研修会(4月12日) 参加申し込み

ご氏名(ふりがな)	所 属 名	連 絡 先

* 複数枚必要な場合は、おそれいりますが、コピーをしてお申し込みください。